



artful\_settaya\_004\_history

(歴史編)

2023年10月のアートフル・サフランの摂田屋版が、  
アートフル・摂田屋です。  
この座学と現地ガイドツアーがセットになっています。  
今日は歴史編のみですが、こんな順番で、お話しします。

# 目次

1. 歴史から見た摂田屋
2. 旧三国街道(摂田屋エリアは  
別名・殿様街道)と異説・牧野候通り
3. 醸造業の発展の要因
4. 意外な通行者、訪問客
5. 中越地震20年、思い出すこと

土地の成り立ち、  
摂田屋の醸造のはじまり

絵画、書、彫刻、  
そして自然編が、  
もう一方のテーマ。

# 中越の歴史

縄文期 関原丘陵・上除の馬高遺跡、東山丘陵・柿の山下(さんか)遺跡  
など縄文中期の遺跡群

荘園の時代 摂田屋は、和歌山有田郡の歓喜寺の所領。

12世紀後半の保元平治の乱、越後でも勢力の移動

栃尾の蔵王権現が逃避

金倉山、大峰山の修験道隆盛と歓喜寺接待屋開設

室町はじめ 春日山城築城 上杉憲顕

(上杉は、藤原氏の系統、公家が、鎌倉時代に関東にて武家)

南北朝 越後は主に南朝方で、敗退

足利氏との血縁から上杉が関東管領を世襲

武蔵・伊豆・越後の守護職を世襲する越後上杉家が成立

# 中越の歴史・続

越後守護上杉家、守護代長尾家、関東管領上杉家  
長尾家の台頭、長尾為景の時代に春日山城は要塞化  
謙信の家督を継いだ上杉景勝

(越後長尾氏の上田長尾家の出身)

上杉景勝、豊臣政権の五大老になる

上杉遺民一揆(棄民一揆)

主に堀氏(東軍) VS 上杉景勝(西軍)の軍、影響下の在地勢力

徳川の時代、堀氏築城を経て牧野氏開府

譜代大名牧野氏で通した江戸時代、舟運で栄える

明治の復興、石油、繊維の長岡商人

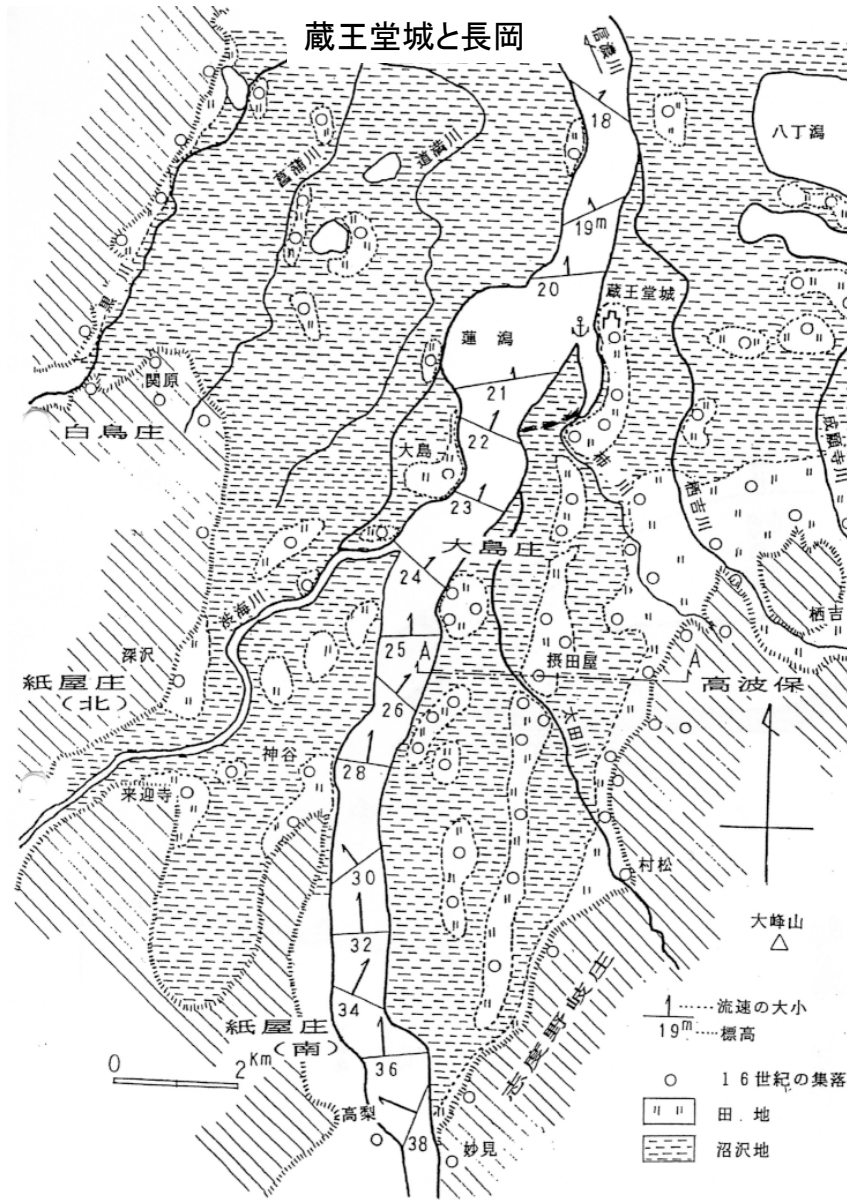
# 1. 歴史から見た摂田屋

- ① 中世の歴史
- ② 近代、江戸以降の歴史

村松関連のできごと			
13世紀 紀伊の歓喜寺、 古志の円融寺	14世紀 村松・栖吉が中越の 中心地で、金倉山 周辺に修験の地	15世紀 満願寺、円融寺 大峰山の麓に 宗教都市誕生	16世紀 満願寺、円融寺 上杉棄民一揆で 突如崩壊

# 中世の長岡

## 大半は湿地帯



本図は出典不明  
です。大変な労作  
と思います。  
済みません。

十七世紀頃の蔵王堂城50.png

平安、鎌倉 ～ 寺社、摂関家の領土。

室町 ～ 幕府が任命した管領職、関東管領として上杉氏一族。

戦国 ～ 上杉の家臣から台頭する長尾氏一族へ守護職の交替。

上杉、武田の戦いも、宗教の聖地である諏訪、善光寺の帰趨をめぐる争いに見做せる。

朝廷、及び宗教勢力との二重統治から武家単独による全国統一へと進めたのが江戸幕府であり、近世の始まり。



謙信は、栃尾城から長岡宮内・上条城に移ったとき、  
長尾から上杉に養子として迎えられた。  
(中世の越後の大事件)

上条城の位置は、現在の原信・宮内店の東にあたり、栖吉城、村松城が見え、さらに栃尾城も榎峠に中継の出城を持てば、連絡を持てる位置になる。西山方面、小千谷方面も眺望が拓け、金倉山を抑えると魚沼全域にも連絡を持てる。

その意味で、宮内・上条城は、重要拠点と云える。  
村松城と金倉山頂上を結べば、魚沼・坂戸城の上田衆との連絡も可能であったであろう。

上条城を含め、これらは、城というより大きな館が、主要な城としての栃尾城、栖吉城、坂戸城との連携出城のようなものだったと思われます。

中世の摂田屋周辺には、武士の館が散在。

上杉の家臣から台頭する長尾氏一族へ守護職の交替  
上条城の近くの摂田屋城、定明城、鷺巣城、村松城、そして中沢城。

摂田屋城	太田川の右岸、吉乃川の上組蔵の真南あたりにあったらしい。川上四郎の生家も、このあたり。
定明城	尼寺の定明寺と八幡神社の間のあたり。 吉澤仁太郎の生家も、近く。
鷺巣城	鷺巣町の曹洞宗寺院の定正院の境内にあったとされる。 山上の寺の周りは、参道階段や崖に囲まれた要害である。
村松城	長岡市村松町の古刹円融寺の奥山にあったという。 背後には修験の大峰山を控え、やはり要害である。
中沢城	中沢町の奥、真宗大谷派寺院の専行寺から、中央総合病院の見える方角に少し行っところ。

中越の上杉勢は、全て、景虎側だった。

（長岡から全周を見渡しても、景勝勢は、小木の城のみ。）

もしも、景勝側についていたなら、これら館のいくつかは残り、村松の二つの巨大寺院も、七堂伽藍が残っていたかも知れません。

## 宮内の地域名に残る、都野神社（現・高彦根神社）

源頼朝から神領三千貫を寄進された大社であったが、  
天正六年（1578）の御館の乱で、景虎側だったため、  
兵火にかかり焼失。神領も没収されたらしい。  
都野神社は御館の乱の後に、与板に移された  
宮内の現・高彦根神社は、式内社・都野神社の論社である。  
～ 論社とは、延喜式に記載された神社と同一もしくは  
その後裔と推定される神社のこと。

（明治初年に、現社号・高彦根神社と改称。）

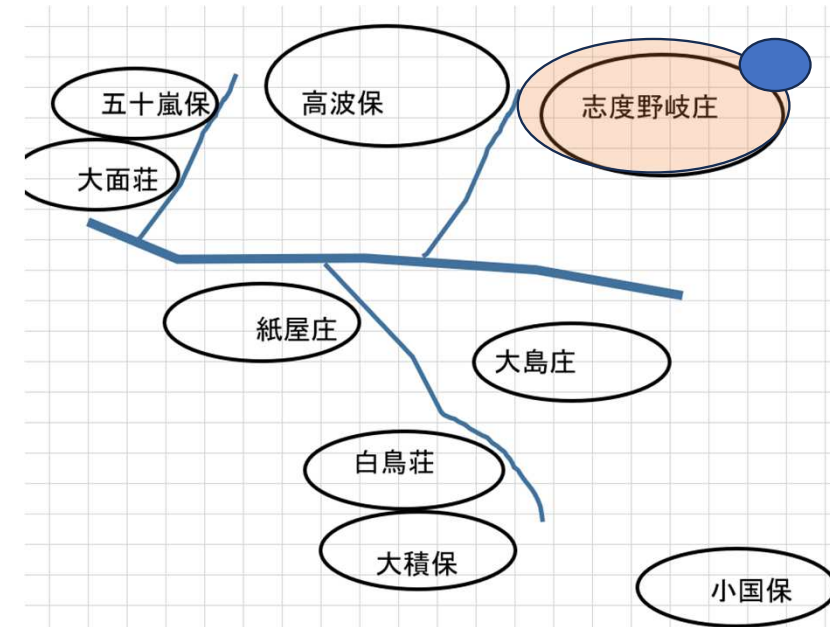
蔵王神社が、寺泊矢田から何処に移るか、  
というとき、どう考えたか。 春日説は、

①修行の場を、栃尾に近い東山は避け、  
南の大峰山、金倉山に行ける蔵王にした。

②摂田屋を宿泊の集落に使おう。

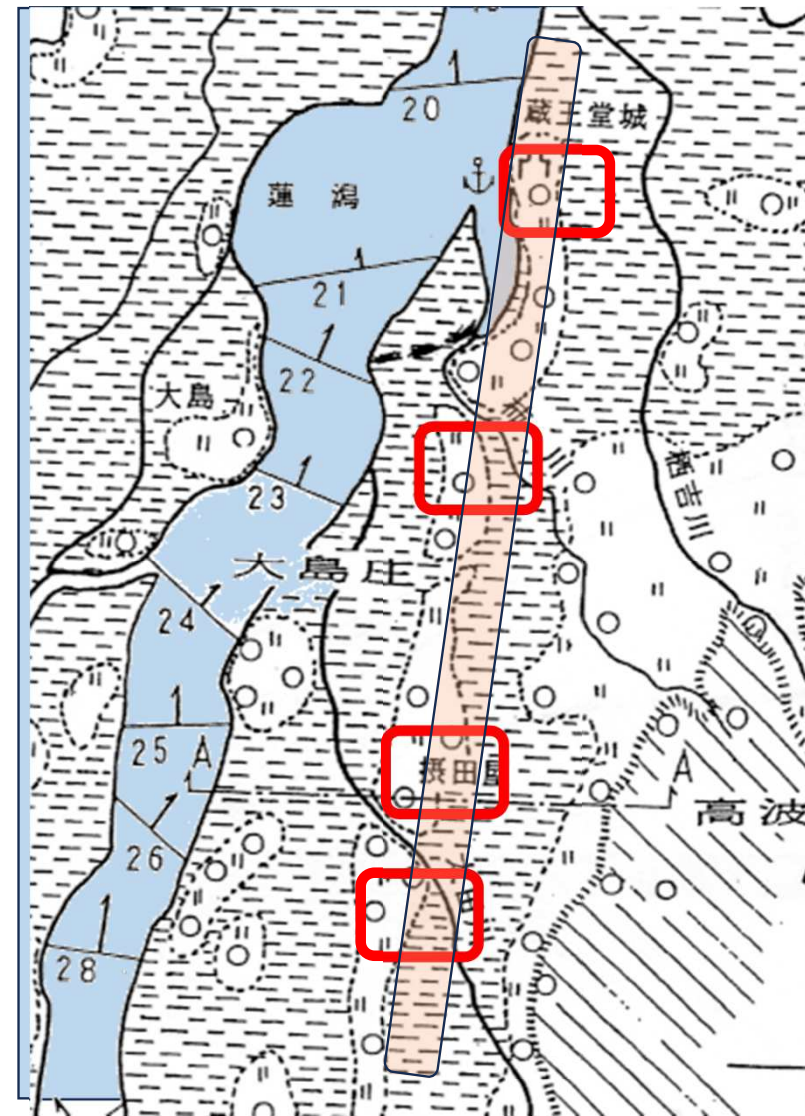
# 志度野岐庄

庄は貴族・寺社領、保は国府領を示す言葉。  
よく耳にする志度野岐庄は、小千谷から妙見、  
石坂付近が中心。その志度野岐庄の一部が  
歓喜寺領であつたらしい。(大峰山)  
近くの紙屋庄、大島庄などは藤原摂関家領で  
あったようだ。更に北に高波保、西に白鳥荘、  
大積保、小国保などに囲まれていた。  
更に北の下田は五十嵐保、大面荘。



流路が移る信濃川は、少なくとも縄文期には東山麓脇に流れた。それが東山の縄文遺跡であり、村松(村間津)の地名に残る。

蔵王堂から摂田屋、十日町までの線上が、湿地帯のなかの丘。十日町も古くから集落になった。



蔵王

長岡

摂田屋

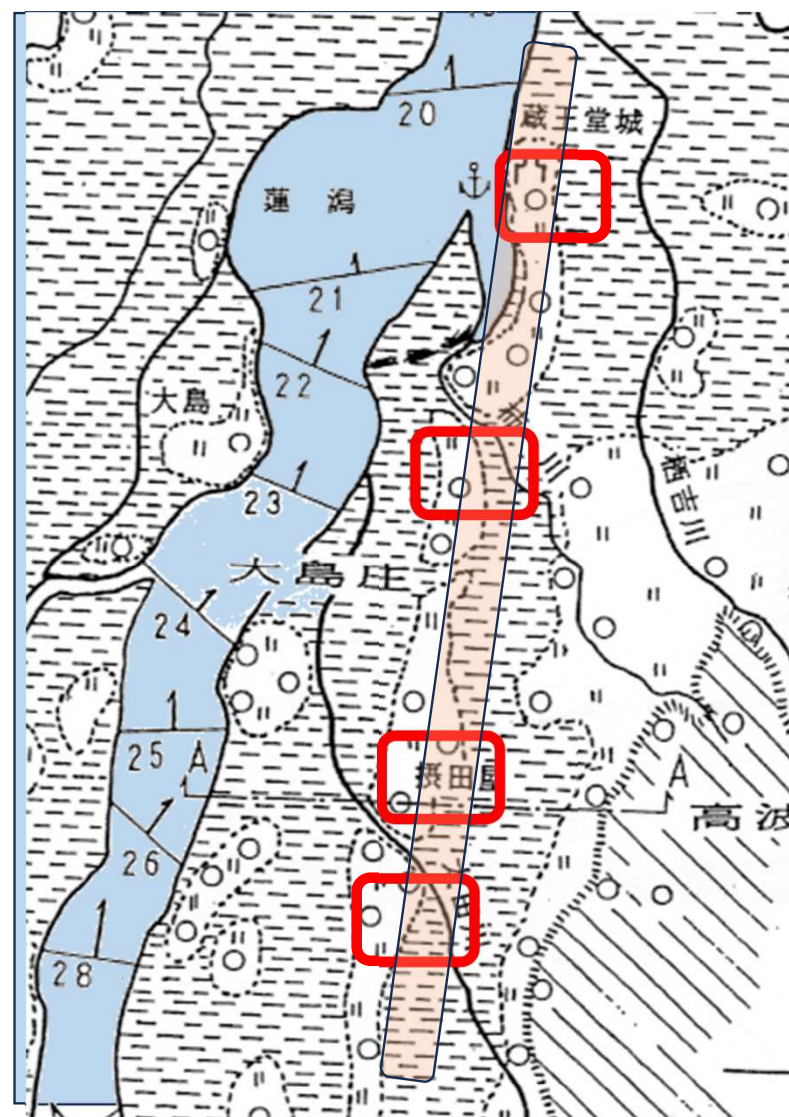
十日町



東の山麓に住む人々が、稲作作業のため、湿地帯の小高い位置に田屋を建て、摂田屋の地名になった。

蔵王堂の修験者が、修行の場としたのが、大峰山、金倉山の山々。彼らを接待したのが、接待屋という地名になった。

江戸期、蔵王神社別当寺の支配地の接待屋村、譜代大名越後長岡藩領の接待屋村が、並存。



蔵王

長岡

摂田屋

十日町



# 江戸以降の信濃川右岸の新田開発の歴史

新田開発の歴史 = かんがい用水の建設史

福島江  
東大新江

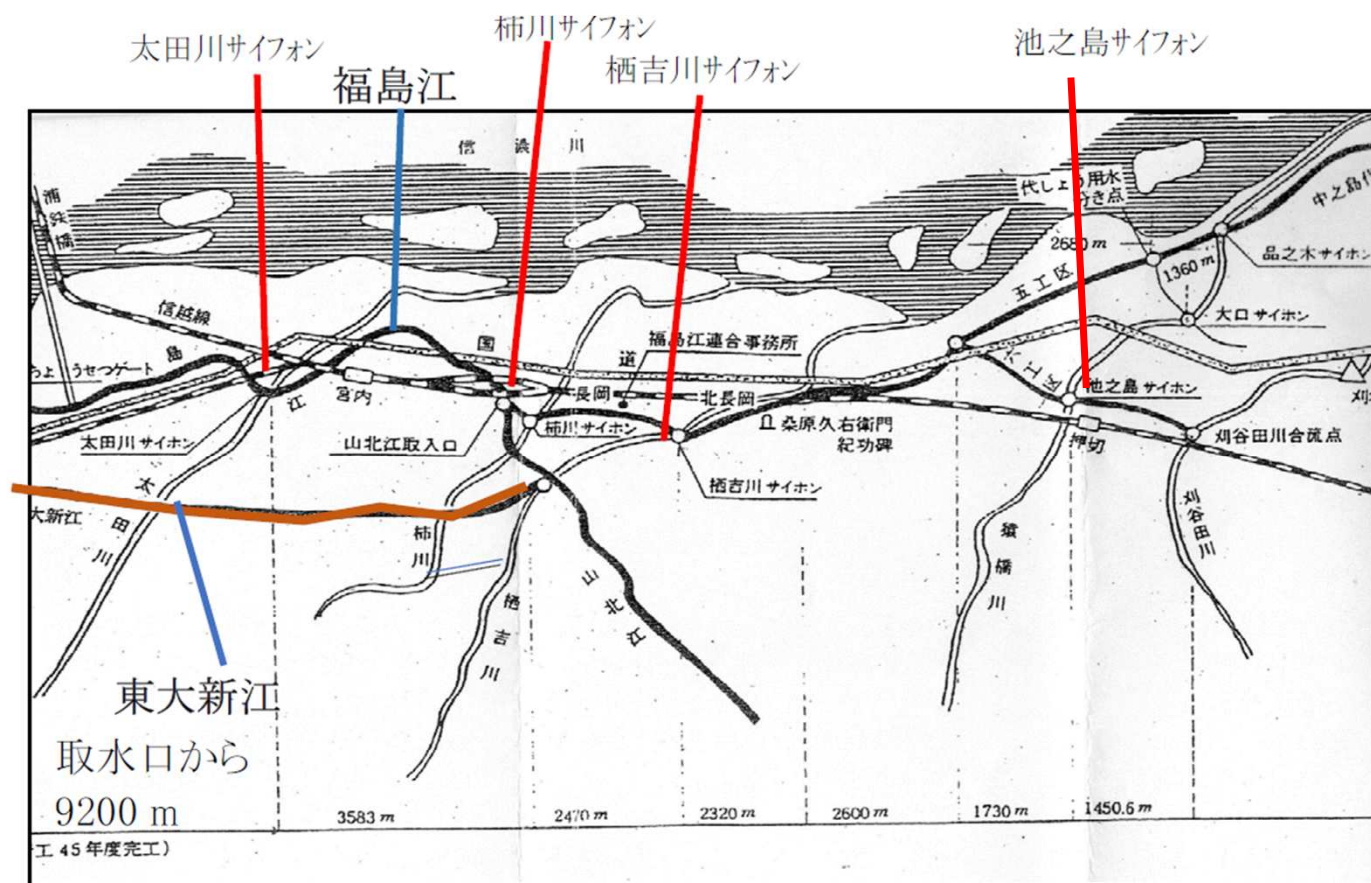
太田川 竹之高地に源

栖吉川 栖吉に源

柿川 南蛮峠付近に源

猿橋川（成願寺川）成願寺、浦瀬など東山に源

## 福島江の実用化はサイフォンの建設に依存



参考 下越の排水機場のポンプの能力

～ 90基の大型排水機場と大河津分水が、越後平野乾田化の両輪

### (1)新川河口排水機場

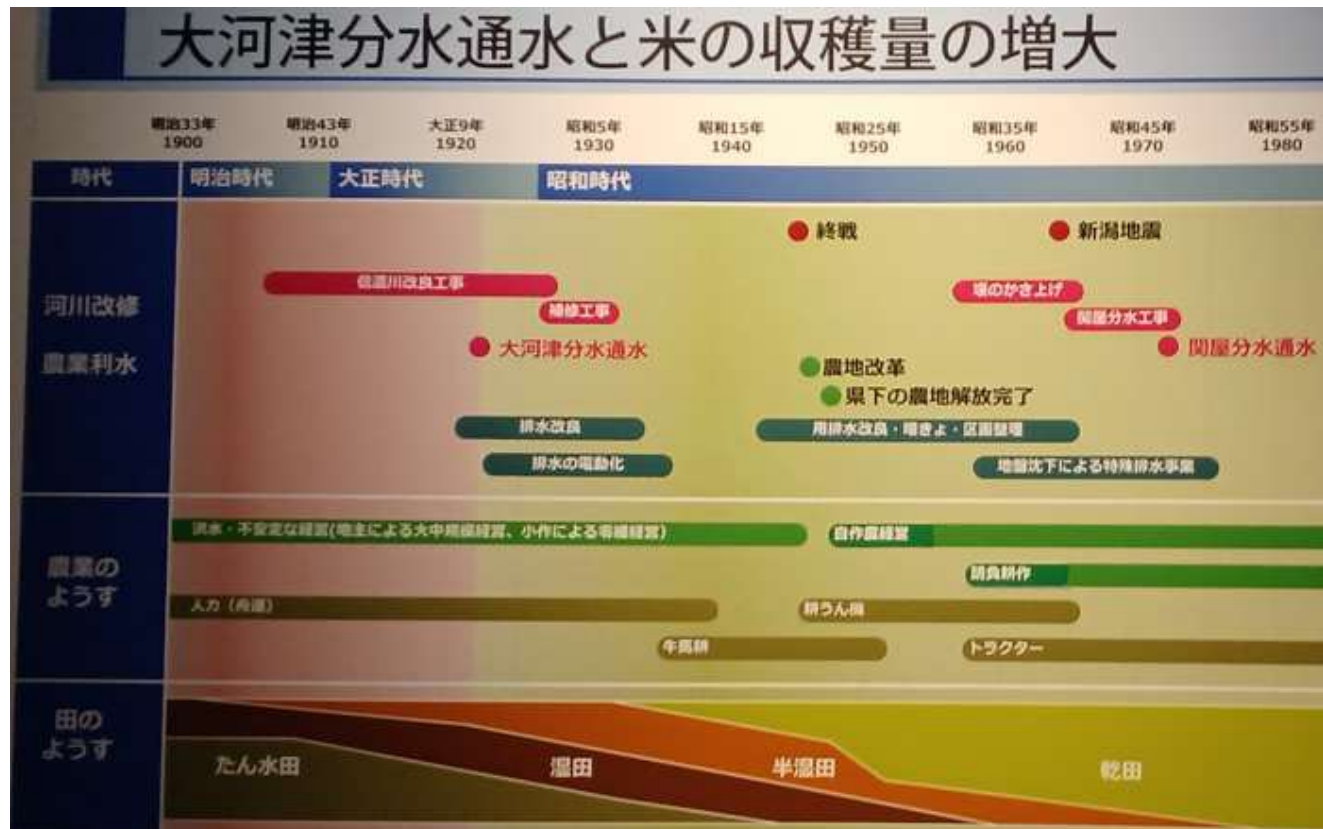
国内最大 240m<sup>3</sup>/secの排水能力

(25mプールの水 (500m<sup>3</sup>) を、1.5秒～2秒で排出する能力)

### (2)使用ポンプの能力

原動機	口径	ポンプ型式	揚程	排水量	台数
電動機 1,400kW	4,200mm	横軸円筒型軸流 (可動翼)	2.4m	40m <sup>3</sup> /秒 (1台当たり)	6台

## 排水機場設置の背景



- 新潟平野は、昭和20年代までは「地図にない湖」が存在し、腰胸まで浸かった稲作が営まれていたが、国営土地改良事業の実施等により、平野の約半分にあたる5万haを乾田化し、我が国有数の穀倉地帯に発展。

腰までつかり  
農作業



提供: 亀田郷土地改良区

- 約1万haの農地は、現在も海拔0m以下であり、これまでに築かれた大規模排水機場や近代的な用排水網により優良農地を維持。

2. 旧三国街道(摂田屋エリアは別名・殿様街道)と  
異説・牧野候通り



さまざまなストーリーが、考えられます。

- ① 領内視察に、いちいち下馬しないで済む道を作るのでは。
- ② 藩の専用道路にしたなら、一般の地図には記載しなくても不思議ではない。
- ③ 摂田屋を通らず、福島江沿いなら、一石二鳥。

## 江戸初期 東福門院和子の母、妙徳院と長岡・摂田屋村

東福門院和子(まさこ)とは、後水尾天皇の妃(中宮)、そして第109代 明正天皇(女帝)の生母である。徳川幕府の公武合体に貢献し、徳川300年安泰の基礎を作った。絶世の美女と謳われる。和子は、美術の面でも、多く残している。

修学院離宮を建てた費用の大半が和子の要請により幕府から捻出されたものとされる。

茶道を好み、千利休の孫である千宗旦を御所に招き茶事を行い、茶道具に好み物も多く、野々村仁清に焼かせた長耳付水指(三井記念美術館所蔵)が現存する。

宮中に小袖を着用する習慣を持ち込んだのは和子といわれ、尾形光琳・乾山兄弟の実家である雁金屋を取り立てたとされる。

ここまでは、史実のようだが、ここからが諸説いろいろ。

wikiでは徳川秀忠の五女として江戸城大奥で誕生。和子の母は豊臣秀吉の養女・達子(浅井長政の三女)となっている。

ところが、越後長岡では、和子は城の外で密かに誕生。後にお城へ。和子の母は妙徳院で、上杉謙信育ての親とされる軍師、本庄実乃の孫としている。妙徳院を堀直奇が秀忠に推挙したとする。

(墓は四郎丸の昌福寺)

妙徳院が隠居して、長岡の蔵王堂に隠棲することにより、天海僧正との関係から貴重な宝物が神社に遺されたとする。なお妙徳院に下された摂田屋などの寺領は全て、別当寺安禅寺所領となった。



安禅寺は寺領として幕府から与えられた朱印地300石を持ち、  
領域は蔵王、寺宝、摂対屋、堀金、雨池、中島の6か村に及んだ  
という。妙徳院の労に対して幕府は年900石を支給。  
妙徳院は、そのうち200石を信州戸隠に、  
130石を摂田屋に寄進したという。  
長岡藩の予算の0.5%に相当する130石が、妙徳院の死後も年金の  
ように摂田屋にもたらされたとすると、その潤いは大変なものである。

江戸時代の摂田屋の繁栄への寄与は、  
大きかったはずです。

### 3. 醸造業の発展の要因

(1) 江戸末期

摂田屋醸造の創業時期は商品経済への移行という  
時期に重なる  
水陸の物流、良質の水に恵まれた地域であった

(2) 明治大正期の発展

醸造技術開発を先導した摂田屋蔵元  
サフラン酒が長岡中小酒蔵の統合をリード  
一大消費地・長岡町のオイルシティ繁栄

## お福酒造の酒造技術革新

醸造技師を務める傍ら、醸造用水加工や酵母の培養についての研究を続け、その集大成として明治27年、酒造りに関する専門書「醸海拾玉(じょうかいしゅうぎよく)」を発刊。特に醸造用水の加工研究は、軟水による酒造りをいち早く可能にした。

## 吉乃川の酒造技術革新

自動製麹装置の開発、大容量タンク採用、コンクリート製の酒蔵の開発、いずれも日本初で  
日本酒造りの労働集約体質を改善。

# 機那サフラン酒当主の動き

醸造業界の課題への対応

中小酒蔵の大合同、瑠璃容器への着目

# サフラン酒本舗の興亡の仮説

二の矢が不足した

量的拡大を逸した

農地解放で資金不足

石油掘削業界の低迷

先見性	拡大性	広告着目	業界への視点
機那	葡萄酒	大看板 ネオンサイン	酒蔵大合同 瑤瑯容器

オイルシティ長岡の追い風

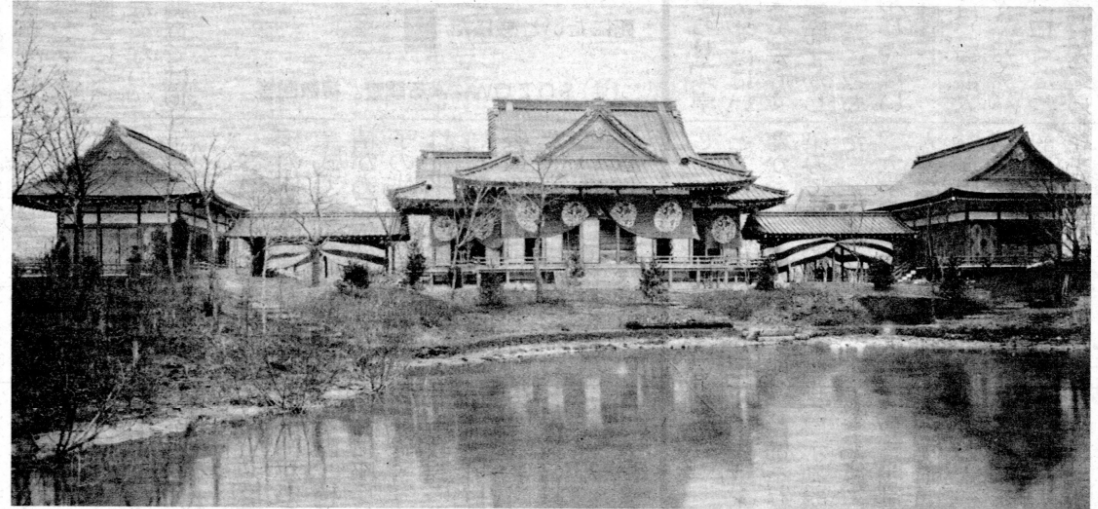
神仏への敬い

勤勉さ

# 機那サフラン酒

## 1893 シカゴ万博に出品

「鳳凰殿(1893年シカゴ万国博覧会)」



写真提供 ユニフォトプレス

93年シカゴ万博は、これを受けての実験場となった。不退転の覚悟で臨んだ日本は、「東洋悠久ノ一大帝国」の姿を表現しようとした。宇治の平等院鳳凰堂を模した日本館「鳳凰殿」は、その象徴的な存在である。(1893年、木造建築、1946年焼失)

ところが、その絶頂にあった1870年代後半には、日本の文化的産品が人気取りに傾き、劣化していることを、むしろ欧米側の識者から指摘されるようになる。89年パリ万博への日本の参加を現地で統括した柳谷謙太郎(農商務省)は、その状況を自覚し、日本の関係者に徹底的な内省と方向転換を促した。

欧米諸国が舵を握る国際社会に、いわば遅れて参入した明治の日本にとって、万博に出展し、自己アピールを行うことは、国の命運を握る一大事業であった。各回の参加にあたっては、展示の大方針から品物の安全な運送方法に至るまで、官民を挙げて侃々諤々の議論が重ねられた。

ジャポニスムと呼ばれる現象は、その成功の一つの側面である。日本的な構図や意匠を採り入れた美術作品にとどまらず、広く欧米の人々の生活を「日本趣味」が席卷した。

### 万博の風景

十選

京都大学教授 佐野 真由子

(7)

# そのときの サフラン酒ラベル

摂田屋進出前、  
シカゴ万博と  
特許申請

サフラン酒のラベルを読む

無類別製

## 目指したものは「無類別製」

このラベルは仁太郎が明治24年農工省特許局に商標申請した時に添付されていたものです。当初は「機那」ではなくカタカナで「キナ」と表記されていました。住所は摂田屋ではなく実家の定明で、姓も当時婿養子となっていた「小林」です。

説明文には「この商標は長方形の2欄を設け欄中に蜀(しょう)紅(こう)形(8角形の文様の枠)及び唐草を画き四隅に無類別製と書し、其の中に海中の双龍水上五つの茶(ちゃの)實(み)(二枚の葉の上に茶の実のあるもの)の綴りの上に玉を争うの図を画き右側に登録、左側に商標、其の下に官許御薬キナサフラン酒男女諸病ニヨシ」とあります。

仁太郎デザインの基軸のひとつは「龍」です。本舗見学の際数えてみてください。建築・庭園・装飾・広告いたる所に数えきれないほどの龍が存在します。

そして仁太郎ワールドのテーマはラベルに表記された「無類別製」という言葉で表現された唯一無二の世界です。これが多くの皆様が感ずる機那サフラン酒本舗の魅力であると思います。

平沢政明

摂田屋の延焼を防いだ、ひとつの建築物

関東大震災

長岡商業銀行宮内支店建設、急遽、鉄筋コンクリート構造に  
～この建物が、宮内からの延焼を止めた。

現在の、秋山孝ポスター美術館

太平洋戦争末期の長岡空襲

80パーセントを焼失した市街地の中で、  
かろうじて延焼を免れたのは、

学校町の旧制長岡中学、旧制長岡高等工業の一带と、  
摂田屋のエリアだけ。



## 4. 意外な通行者、訪問客 三島億二郎、そして

摂田屋は長岡の周辺で、大きな集落。  
山道方向は村松への道。

### (1) 意外な通行者

高野五十六、堀口大學ら

高野五十六の父、貞吉は、石坂小学校の初代校長。  
幼い五十六も父への届け物を手伝ったようです。

創立記念は明治6年11月。  
明治20年8月 町村制実施により石坂尋常小学校と改称。  
高野五十六は明治17年(1884) 4月に誕生。

堀口大學の長岡中学同級生に松岡譲。  
譲の村松の生家に、遊びに通ったようです。

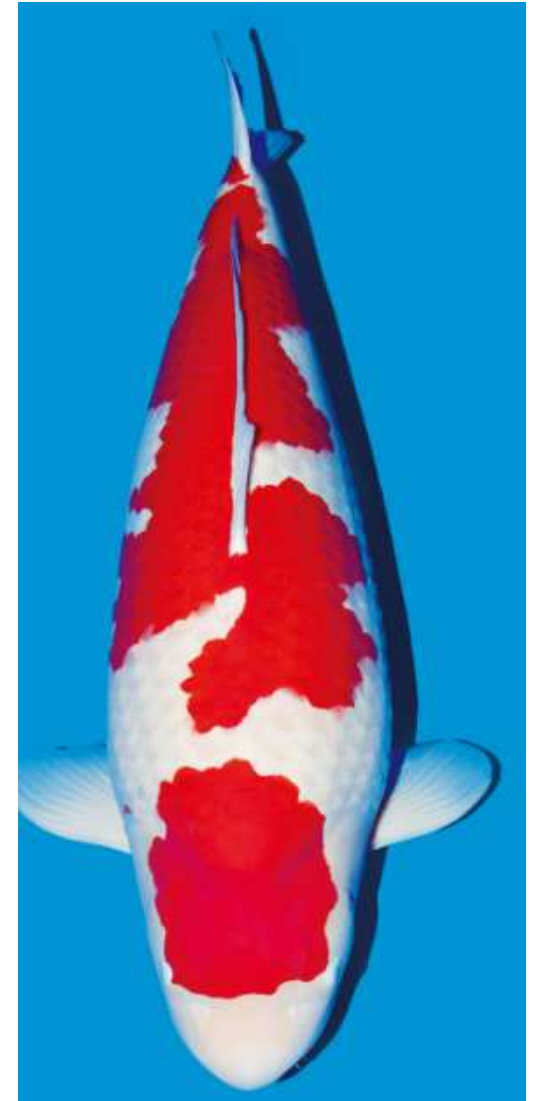
## (2) 現在も通わる、意外な通行者

今から50年前、前川清さんがデビューの  
前後に錦鯉の魅力にはまり、愛好家となる。

山古志の養鯉業者に弟子入りし、ブランド鯉  
「前川紅白」を確立。

近年は、公演の合間、都合がつけば  
山古志へ。

晩秋の野池からの池揚げの雄姿が、例年、  
テレビで放映されている。

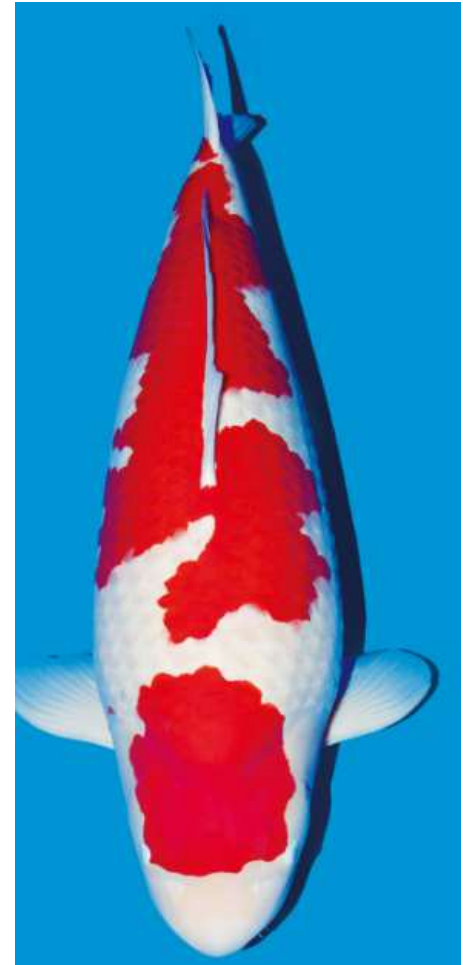


ちなみに  
①がSレジェンド  
史上最高値の錦鯉

②が  
前川さんの紅白  
甲乙つけがたい



① Sレジェンド



② 前川紅白

(3)知られていない、意外な訪問客

木曾恵禅、三島億二郎

## 摂田屋商家の当主らに中国の学問を教えたのは誰か

摂田屋の星野本店の土蔵扉の「孝弟為基・・・」の漢文、  
同じく摂田屋の機那サフラン酒の罎絵に込められた中国思想、  
そうとう高い教養がもとになっているはずと、  
考えておりました。

そして、これらを摂田屋の商家の当主らに教えたのは誰か、  
ずっと気になっておりました。

ところが、

長岡郷土史第11号 1972の

塚田正之助氏「大道校と殿町の塾と囂外鬻」の木曾恵禅の項で、

『文化十二年(1815)十一月二十九日、西蒲原郡砂子塚村長宗寺清水恵亮の二男に生まれて庭訓をうけ、十才のとき同郡熊之森の竹山屯から四書五経・唐詩選の素読を教わり、二年後の天保元年(1331)二月には鈴木文台から経義および史学を学んだ。

...

布教するには演説がもっとも手っとり早く、効果的なところから、彼は、明治十一年、僧侶の子弟を集めてこれを練習させ、長岡を中心に見附・今町・摂田屋の寺院で演説会を開き、あるいは、同十四年、長岡警察署の委嘱で栃尾や魚沼地方に巡回講演を・・・、』とありました。



摂田屋の布教会場は、木曾恵禅師が住職のお寺、長永寺と同じ、浄土真宗本願寺派の光福寺に違いありません。

そして、その檀家さんに、星野本店さんの星野家があります。  
当時の星野家のご当主も、光福寺に恵禅師の弟子の僧侶の法話の聴聞に参加されていたと思います。  
その縁で、恵禅師もご当主とお会いし、新築の蔵の扉に揮毫をお願いしたのではないかと想像します。

恵禅師なら、次頁のように漢書にも詳しく、書物名は不明ながら四庫全書に残る「孝弟為基・・・」の書を選んだとしても、何ら不思議ではありません。

木曾恵禅師は、竹山屯から四書五経・唐詩選の素読を教わり、鈴木文台から経義および史学を学んだ、とあり、漢書を学び、中国の古典思想にも親しんだと想像されます。

これらより、もしかしたら、摂田屋の商家の当主らに教えたのは木曾恵禅師かも知れないと、考えました。

恵禅師なら納得で、個人的には「大発見」でした。



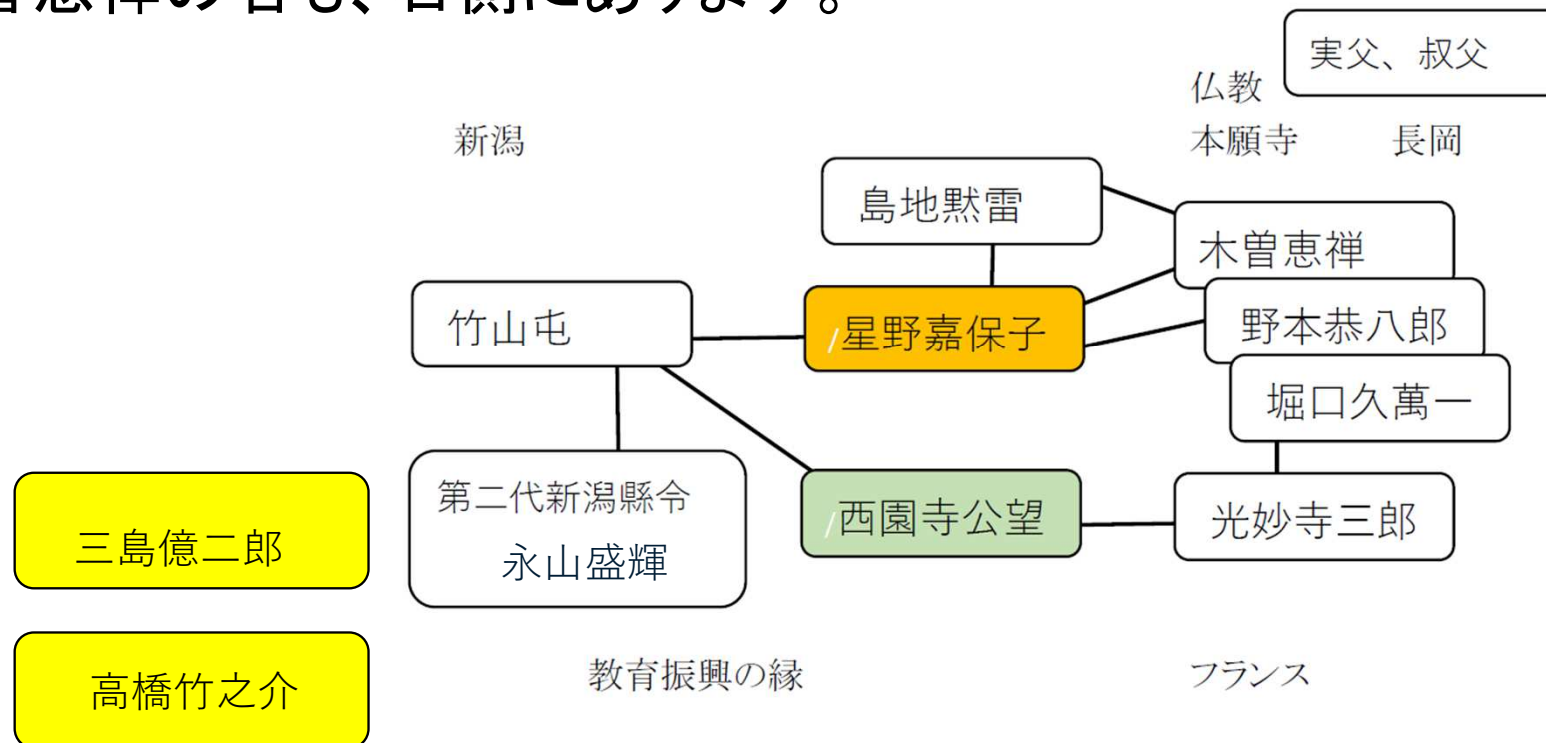
もうひとつの、機那サフラン酒の鰻絵をはじめとした、  
吉澤家の装飾も、どなたかの関与があつてのことに違いない。

これも、もしかしたら、檀那寺の鷺の巣・定正院の方丈様か、さらに  
その本山である總持寺の石禅師から教授されたものも含まれると  
考えても、いいのではないかと思います。

## 三島億二郎の摂田屋訪問（北海道開拓）

明治19年、北越殖民社を設立。当時の北海道長官は、岩村通俊(精一郎の兄)で、岩村通俊から多くの協力を得た。明治22年(1889)の暮れから翌年正月、64才の億二郎は、人足三人を従えて山古志や長岡各村を周り、移住希望者を募った。1/11は小曽根、1/16は摂田屋村。  
～岩村北海道長官へは、当時の新潟県令・永山県令が橋渡しをしたらしい。

星野嘉保子の新潟県令・永山県令ほか、人物関係図に、  
三島億二郎、高橋竹之介を追記しました。  
木曾恵禅の名も、右側にあります。



## 5. 中越地震20年、思い出すこと

醸造会社、全て復興

新幹線脱線現場と、震災前の愚直な補修工事

山古志をはじめ、中越全体の復興のスピード

東山麓は地震の巣

三条地震(1828)の震源 現在の長岡市栃尾椿沢付近  
中越地震(2004)も長岡市川口

大峰山 山頂の一等三角点 1mの水平移動

新幹線脱線箇所は長岡市十日町

その前、阪神大震災の被災状況の検討から、高架の総点検  
全体の70%を補修していた。高架はひとつも崩落せず、  
唯一の脱線が、この一件のみ。

摂田屋も地震被害大。 鰻絵蔵破損、長谷川酒造 レンガ壁が脱落  
越のむらさき 蔵の壁にひびが入り、レンガの煙突が損壊

## 山古志の避難、復興のスピード

- 山古志の全住民2,200人、地震の翌日午後、県に全員避難を要請、地震の2日後には長岡市内に一斉避難を完了（阪之上小など）。
- 避難所建設と、地区単位で順次移転。
- 住民、4年後に、希望者ほぼ全員が山古志に帰る。  
（道路、宅地の復旧が終わったということ）
- 道路復旧を中心に、土木工事へ900億円を2年間に投入したと 云われています。



## 中越地震の復興のスピード

たまたま、当時、越路橋を渡って右岸から左岸に通勤していました。

毎朝、他県ナンバーのダンプカー、東北電力の工事会社の車の、たいへんな車列とすれ違っていました。実感として、二年間の集中工事。

山古志の地すべり箇所の新築も、当時の最新の土木技術が、惜しみなく投入されたとのこと。

## 濁沢のトンネル建設を含む迂回道路建設

側を流れる太田川右岸に通る幅員狭小，線形不良な現道を迂回する282mの2車線道路トンネルとして計画され、トンネルは新技術のNATM工法で施工。鋼材による支保工とロックボルト，コンクリート吹き付けにより地山を安定させるたとのことです。最新技術の採用と工事期間の短さで、記録づくめの、驚異のスピード工事だったそうです。

## (蛇足) 大河津分水拡幅治事業のスピード、工事費

- ・長年の課題と近年の豪雨に対し

放水路の拡幅(山地部掘削、第二床固改築、野積橋架替等)

事業期間:2015 H27年度～ 2035 R14年度

====> (～2041 R20年度)

全体事業費:約1,200億円

====> (約1,765億円)

## (蛇足) 長岡市柿川放水路のスピード、工事費

平成23年7月下旬、新潟では記録的な豪雨。  
柿川流域、累計雨量160mm、最大雨量55mm/時。  
(平成23年7月新潟・福島豪雨)

事業箇所 : 長岡市幸町～金房

事業期間 : 2012 平成24年度～2018 平成30年度

工事内容 約128億円

